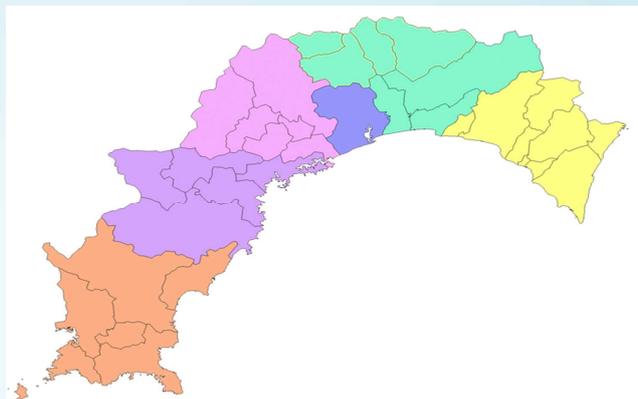


地域包括ケアシステムを支える 高知型薬局連携モデルの整備

～薬局間連携・薬薬連携・多職種連携
3つの連携強化の取り組み～

高知県健康政策部医事薬務課

高知県



面積 7103km²

東西 189km 南北 166km

人口 728,276人(H27 国勢調査)

65歳以上人口 237,012人(H27 国勢調査)

(高齢化率 32.8% 全国2位)

大目標Ⅱ 地域地域で安心して住み続けられる県づくり ～「高知版地域包括ケアシステム」の構築～

本人の意向に沿ってQOLを向上させることを目指した「高知版地域包括ケアシステム」の構築の取組を加速化！



サービス資源のさらなる充実 地域地域で必要なサービスが確保できるようこれまでの取組を充実強化！

<p>●発病を遅らせる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の介護予防の取組の活性化のためのリーダーの養成 拡 高齢者の状況に応じた介護予防プログラムの検討 拡 高知家健康パスポートを活用したポピュレーションアプローチの強化 ・あったかふれあいセンターの整備と機能強化 	<p>●入退院から在宅生活への円滑な移行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入退院時の引継ぎルールの運用・改善への支援 拡 退院支援指針を活用した退院支援体制の構築及び人材育成 拡 ICTを活用した医療と介護の情報共有の推進 <p>●救急医療の確保・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急医療関係機関の連携強化 ・休日夜間の医療提供体制の確保 拡 ドクターヘリの円滑な運航 	<p>●在宅サービスの量的拡大への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 拡 訪問看護ステーションの体制強化への支援の検討 拡 小規模多機能型居宅介護事業所の整備促進 拡 在宅訪問薬剤師の養成と訪問による服薬支援の強化 拡 中央・幡多圏域に加え安芸圏域に在宅歯科連携室を設置 <p>●療養病床の介護医療院等への転換支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー等を通じた先進事例や関連情報の周知 新 転換を検討する際のシミュレーション費用への支援 拡 介護医療院等への転換整備費用の支援
---	--	--

連携の仕組みづくり 医療・介護・福祉の接続部を担う人材（ゲートキーパー）の機能強化と切れ目のないネットワークの構築強化！

<p>ゲートキーパーの機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ●支援を必要とする高齢者を見つける力の強化 ・民生委員・児童委員の活動支援、研修実施 ・あったかふれあいセンター職員のスキルアップ ●個々の状態に応じた支援（在宅・入院・介護）につなぐ人材の機能強化 拡 総合診療専門医の養成策の強化 拡 ケアマネジャーの資質向上への支援 	<ul style="list-style-type: none"> ●ネットワークの核となる地域包括支援センターの機能強化 拡 地域包括ケア推進監等による個々のセンターへの支援の強化 アドバイザーの派遣等によりネットワーク構築に向けての課題解決の取組を推進 拡 地域包括支援センターの人材確保への支援 主任ケアマネジャーの確保につなげる研修の実施 拡 地域ケア会議の推進 ↑高知県版地域ケア会議ガイドラインの改正により地域ケア会議を活用した先進取組事例を横展開
<p>入院から退院、在宅までの流れを支援する仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域包括ケア推進協議体」を活用した顔の見える関係づくりへの支援 ・入退院時の引継ぎルールの運用・改善への支援（再掲） 	<ul style="list-style-type: none"> 拡 退院支援指針を活用した退院支援体制の構築及び人材育成（再掲） 拡 ICTを活用した医療と介護の情報共有の推進（再掲） 新 在宅医療に係る情報を多職種間で共有するシステムを普及（高知家@ライン）

<p>障害のある人もない人も、ともに支え合い、安心して、いきいきと暮らせる社会づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 拡 発達障害児者及び家族支援の充実 新 医療的ケアの必要な乳児の受け入れ体制の整備 新 農福連携促進コーディネーターによる施設外就労の促進 など 	<p>心の健康づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 拡 妊産婦等のメンタルヘルス対策 拡 依存症治療の体制の整備 など 3
--	--

高知型薬局連携モデル

① 高知家健康づくり支援薬局【知事認定制度】
H26年度～ 県民の健康づくりを支援
(R2.1月現在 309薬局(県内薬局の78%))

② 医薬品の適正使用
市町村国保、後期高齢、協会けんぽ高知支部との協働事業
上記3医療保険者で県民の約80%をカバー
H30年度～ 重複/多剤投薬、相互作用の是正
ジェネリック医薬品の使用促進

③ 薬薬連携の推進
H30年度～ 薬局・病院薬剤師間の入退院時の服薬情報等の共有等

④ 在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」
H28年度～ 多職種連携による在宅患者の服薬支援
(モデル地域で取組開始→H30年度から県内全域に拡充)
R元年度～ ICTを活用した多職種連携による服薬支援(モデル地域で実証開始)



県民及び医療・介護関係職種への
薬剤師職能や薬局機能の見える化

これまでの成果

患者のための薬局ビジョン推進事業(H28~H30)を活用して・・・

事業前の県民、他職種の声
→薬局は薬を渡すだけで在宅訪問できるの？ 地域医療・介護で薬剤師の姿が見えない！

薬剤師・薬局への地域(市町村)、多職種、県民からのニーズが増加

✓ 地域ケア会議への参加

平成30年度 18市町(広域連合含む)

→令和元年度 27市町村(広域連合含む)/34市町村 (平成31年4月)

約2倍

✓ 在宅訪問実績薬局

平成28年7月 95薬局(在宅服薬支援事業「高知家お薬プロジェクト」を開始)

→平成30年7月 139薬局 →令和元年8月 183薬局 / 374薬局(保険薬局)

✓ あったかふれあいセンター*での出前講座

平成29年度 0件 →令和元年度 10ヶ所(令和元年10月)

*あったかふれあいセンター
年齢や障がいの有無にかかわらず、誰もが気軽に集い、必要なサービスを受けることができる地域福祉の拠点 31市町村50ヶ所(令和元年6月現在の設置数)

5

地域活動が活発になってきた一方で・・・

様々なニーズに応えることが困難な地域があることがわかった

6

背景：小規模薬局が多い

1薬局あたりの薬剤師数 2.38人(全国3.03人)

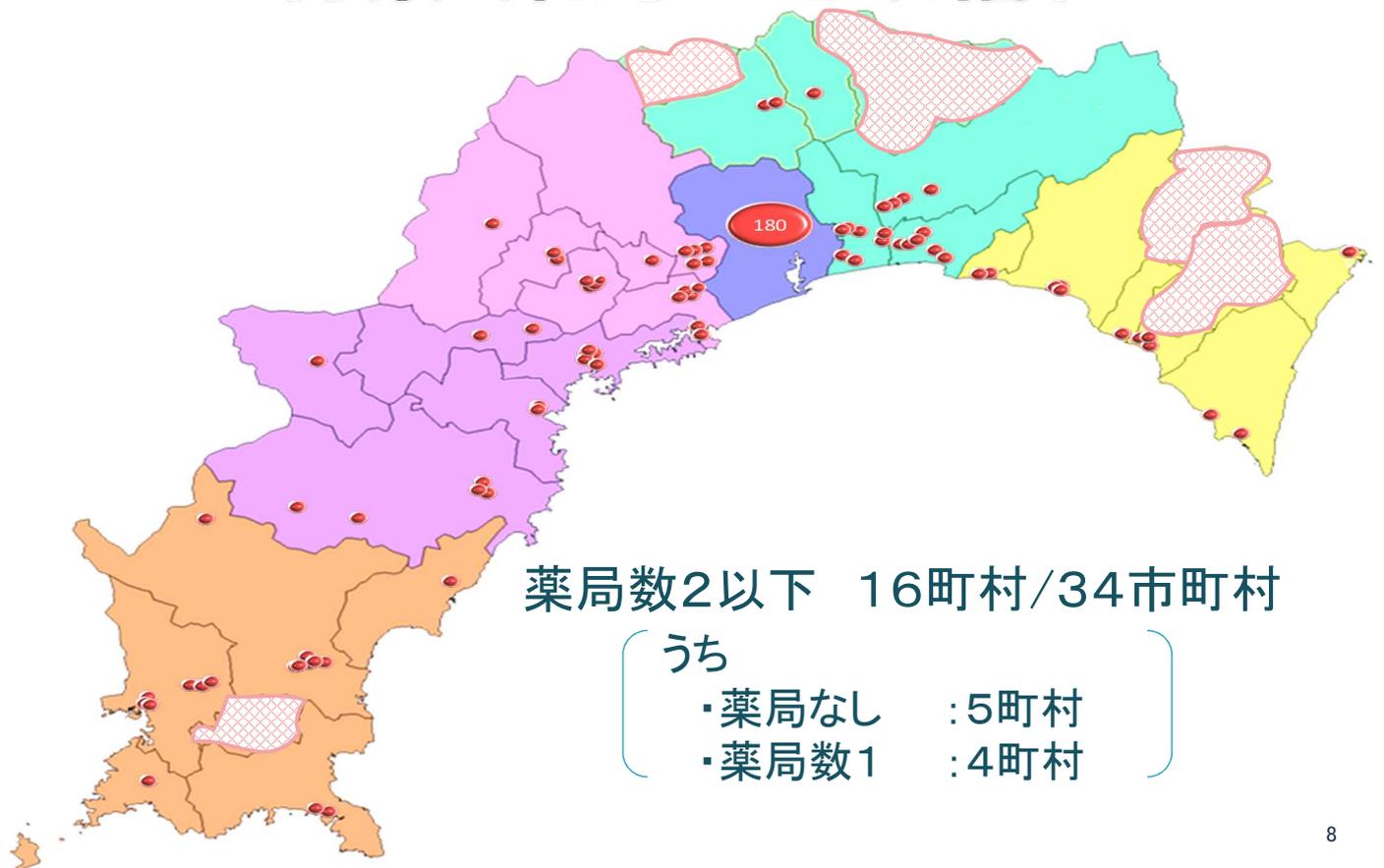
※ H30年末医師歯科医師薬剤師調査、H30年度衛生行政報告例より算出

小規模薬局からの声

薬局外活動(在宅対応、地域ケア会議、退院前カンファレンス、地域活動など)に対する時間の確保が難しい

7

背景：薬局の地域偏在



8

[第1の連携] 薬局間連携

薬局がない・少ない地域をカバーする体制の整備が必要

地域包括ケアシステム全体を支える仕組み

9

課題解決：薬局間の連携を強化

小規模薬局が多く、薬局の地域偏在がある中で、すべての薬局が「かかりつけ薬剤師・薬局」機能を発揮し、地域包括ケアシステムの一翼を担うために、**薬局間連携の体制を整備**

薬局間連携

★ 拠点薬局を中心に地域の薬局が連携して、健康サポート機能とかかりつけ薬剤師・薬局機能を発揮できる仕組み

◎ 薬局間連携の整備のスキーム

地域ワーキングの実施

メンバー：薬局薬剤師、病院薬剤師、
介護支援専門員、

行政（薬事関係、市町村、地域包括支援センター）など

10

薬局機能を見える化し、地域活動を分担

高知県薬剤師会〇〇支部（※※福祉保健所管内）				R2. 1月現在
薬局連携表	〇〇薬局	◇◇薬局	◎◎薬局	☆☆薬局
市町村名（町域）				
TEL				
FAX				
E-mail				
開局時間				
閉局時間				
高知家健康づくり支援薬局				
在宅対応				
地域ケア会議への参加				
お薬・健康相談会への参加 出前講座での講師				
参加可能な時間帯	平日			
	土曜日			
	日・祝日			
学校薬剤師				
スポーツファーマシスト				
災害薬事コーディネーター				
認定薬剤師（種別）				
毒物劇物一般販売業				
高度管理医療機器等販売業				
***** 薬局以外の者への配布禁止 *****				

（地域ワーキングの内容）

- ・地域課題を洗い出し、解決のために必要な情報を整理し、薬局同士で見える化しておく情報を検討
- ・高知版地域包括ケアシステムを構築予定の県下14ブロックごとに薬局機能を見える化→**薬局連携表**を作成

（薬局連携表の活用）

- ・地域活動に取り組む薬剤師が固定化していたが、薬局連携表として見える化したことで、各薬局の意思が確認でき、地域全体として薬剤師による地域活動の裾野が広がった。

〔第2の連携〕 薬薬連携

◇ 病院薬剤師の意見

- ・入院患者の持参薬の整理に時間がかかる
- ・在宅での服薬情報がほしい

◇ 薬局薬剤師の意見

- ・入退院の情報がほしい
- ・退院前カンファレンスに参加、情報共有したい

↓

地域包括ケアシステムにおける**入退院時の患者情報を共有する仕組み**

課題解決：薬薬連携体制の強化

高知版地域包括ケアシステム(県下14ブロック地区で2021年までに整備)

日常生活・予防

薬薬連携

入院・治療・リハビリ・退院

薬薬連携

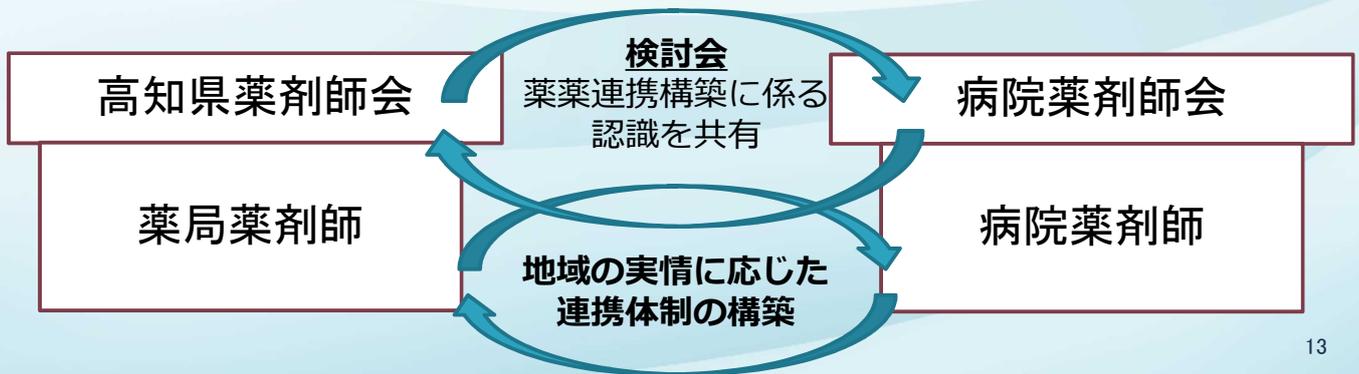
在宅療養・施設入所

〔健康サポート機能強化〕
・全薬局でフレイル予防
・高齢者の見守り活動(投薬機会を活用)

〔薬薬連携体制の強化〕
・薬薬連携シートの横展開
・退院前カンファレンスへの参加

〔在宅医療の推進〕
・地域医師会との連携強化
→地域医療カンファレンスへの参加等

適正な薬物治療を確保し、患者のQOLの向上を図りつつ医療費の適正化につなげる



13

〔第3の連携〕 多職種連携

◇1人薬剤師等の小規模薬局が在宅を含む患者の服薬支援ができる体制の整備が必要

地域包括ケアシステムにおける在宅対応可能な地域を拡大する仕組み

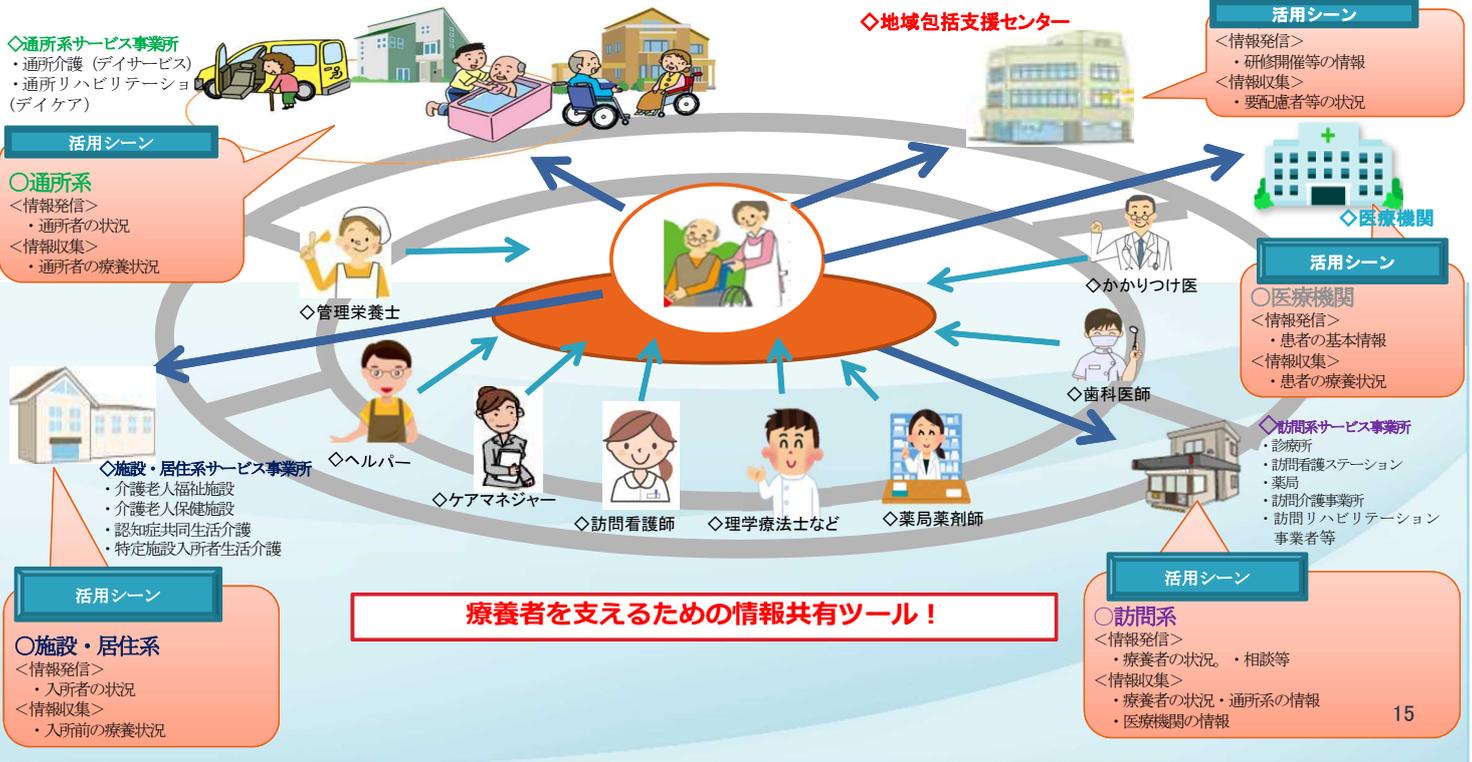
14

課題解決：多職種連携の強化

高知医療介護情報連携システム～高知家@ライン～

～医療と介護のスムーズな連携を行うための事業所・多職種間による情報共有システムです～

～医療施設、介護事業所、医療スタッフ、介護スタッフを結ぶ～



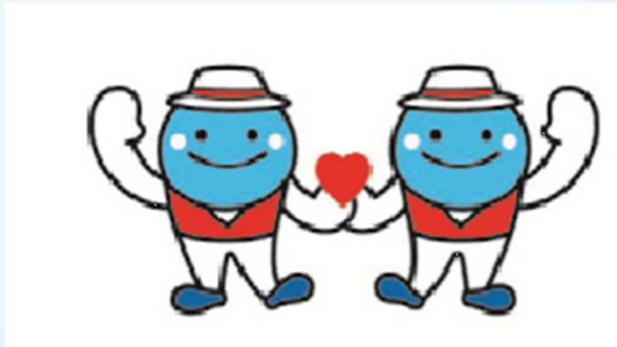
課題と今後の取組について

地域包括ケアシステムの一翼を担う薬剤師・薬局を目指して

これまでの成果	<ul style="list-style-type: none"> ○薬局個々の健康サポート機能、かかりつけ機能を強化 ○高知型薬局連携モデル（3つの連携体制）を各モデル地区で構築、検証
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○小規模薬局や薬局の地域偏在がある中で、特に中山間地域の地域包括ケアシステムを支えるための「3つの連携体制」のさらなる強化が必要
ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ○薬機法改正（対物から対人業務への転換等）への確実な対応 →投薬後の患者の服薬状況等の情報を一元的・継続的に把握するなど、3つの連携体制のもと適正な薬物治療を確保し患者のQOLの向上を図る
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○「3つの連携体制」にICTを導入した新たな連携体制を構築し、中山間を中心に地域ニーズに対応可能とする

県民及び医療・介護関係職種から信頼される薬剤師

ご清聴ありがとうございました



これらの取組を通じて
健康サポート薬局、地域連携薬局につなげます

